

第3学年 英語科学習指導案

日 時 平成27年10月29日(木) 公開授業Ⅳ
 生徒 3年1組 男子19名 女子15名 計34名
 指導者 高橋 健一

1 単元名 Program 6 Let's Talk about Things Japanese

2 単元について

(1) 教材について

本単元では、学習指導要領「指導計画の作成と内容の取扱い」の中では「外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと」を踏まえて、日本の文化を英語で表現することをねらいとしている。普段、「当たり前」の感覚で触れている自国の文化にも視点を変え、世界各国の中での日本独特の文化に意識を向けさせ、さらには、英語で外国人にわかりやすく英語で説明することに主眼をおく。「わかりやすく」を適切な声量で明瞭に話し、的確な英語を使って、大切なところを強調するなど捉え、学習指導要領(1)言語活動イ「話すこと」(イ)における「事実などを聞き手に正しく伝える」を実践する機会としたい。

(2) 生徒について

H24年第2学年5月に実施したNRTでは「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」すべての観点で全国正答率を下回り、特に全国正答率から3ポイント以上下回った問題内容が「強勢や区切りに注意して話す」「考えや気持ちを正しく伝える」「英文を正しく読み取る」「適切な表現を用いて書く」であった。2年次で音読する際に読めない生徒が見られたことから、語彙力とともに、単語を読めるようになることから目標に置き、授業中での語彙力の育成と音読練習に力を入れてきた。その結果、ほとんどの生徒が音読に抵抗感なく取り組めるようにはなっている。音読の表現力については依然課題である。話すということについては、これまでの学習してきた表現から自由に必要な表現を選び、話すということについて訓練中であり、まだ、言いたいことをスムーズに伝えることはできない。「書くこと」については、各文法事項の学習のまとめとして、3文程度の英作文に取り組みせ、主語、動詞の語順について意識できるようにはなってきた。英作文については抵抗感を持つ生徒は少なくなり、楽しみながら取り組む生徒も多い。自己表現が苦手で、人前で話すことに慣れていない生徒も多いので、人前で話すことに楽しみを見出すことも期待したい。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、①1年生からこれまで習ってきたことを会話の流れに沿って自由に使う、振り返り(既習事項の運用)、②単元内で学習した内容の振り返り(復習)、③本時の授業における活動の過程と結果の振り返り(自己評価)の3つの振り返りを念頭に置いて進めたい。特に①運用と③授業の振り返りでは、それぞれにおいて、ルーブリックを作成し、自己評価または、他者評価もしやすくしていき、さらにレベルアップしようとする意欲向上につなげたい。

また、事前に見通し表を配り、現在行っている取り組みがどの時点のものであるかをわかるようにしていく。①に関してはウォームアップとして必要な既習事項を自由に引き出し、スムーズに尋ねたり答えたりする会話能力を養いたい。③に関しては仲間のスピーチを聞く力、目線、態度までに気を配ったスピーチを心掛けさせたい。振り返りとしてルーブリックを参考にさせレベルアップのために次に何をすべきか確認させる。

3 単元の目標

- 自国の文化について相手(ALT・生徒)にわかりやすく口頭で説明する。 【外国語表現の能力】
- グループ内で他者のスピーチを聞き、互いに高め合おうと進んで練習する。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 現在分詞を使った後置修飾の文の構造を理解する。 【言語や文化についての知識・理解】
- 過去分詞を使った後置修飾の文の構造を理解する。 【言語や文化についての知識・理解】

4 指導計画 (PROGRAM 6 Let's Talk about Things Japanese. 10時間扱い 本時 8/10)

次	時間	学 習 活 動
一	1	・現在分詞を使った後置修飾の使い方を理解する。
	1	・現在分詞を使った後置修飾を使って絵や写真を説明する。
	1	・文章に入っている現在分詞の後置修飾を理解し、聞き取ったり、読み取ったりする。
二	1	・過去分詞を使った後置修飾の使い方を理解する。
	1	・過去分詞を使った後置修飾を使って絵や写真を説明する。
	1	・文章に入っている過去分詞の後置修飾を理解し、聞き取ったり、読み取ったりする。
三	1	・自国の文化についての説明を読み、意味を理解する。
	1	・現在・過去分詞による後置修飾を取り入れながら自国の文化について説明する文章を書く。
	1	・写真などを使って自国の文化について説明するスピーチの練習をし、評価し合う。(本時)
	1	・写真などを使って自国の文化について説明するスピーチを全体で発表する。

5 本時の指導について

(1) 目標 お互いにアドバイスをしながら互いのスピーチを高め合い、自国の文化について仲間にわかりやすく英語でスピーチする。

(2) 評価規準

観 点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手だて
外国語の理解の能力	グループメンバーのスピーチを聞いて内容を書きとめスピーチをする生徒を高めようとする評価をすることができる。	ループリックを使い評価の視点を明らかにする。聞き取り内容を書く表への書き込みを促す。
外国語の表現の能力	内容がわかりやすく、情報が3個以上含まれている。90語以上 大きな声で聞こえるように発表し、原稿を0~2回しか見ないで顔を上げて1分間のスピーチをやりきる。	練習⇒スピーチ⇒アドバイス⇒練習 スピーチとなるようにアドバイスを生かした練習の時間を確保する。 今回の練習がパフォーマンステストにつながることを伝える。

(3) 指導の構想

5~6人のグループでスピーチを発表し合い、次回スピーチ(パフォーマンステスト)でさらに上を目指せるようにアドバイスを互いに与え、高め合える練習にする。アドバイスをしやすくするため、生徒の発表やループリックによって評価の基準を明らかにし「振り返る」とともに、次回への自己の目標を「見通す」よう指導する。

(4) 展開

段 階	学 習 活 動	形 態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点(方法) ☆「見通す・振り返る」活動
導 入 10分	1 ペアによる疑問詞の入った疑問文での会話練習。	ペア	☆練習シートによる会話 ○相手の答えについて相づちを打つように指導する。 ●いくつか会話が成立したか自己評価プリントに書く。
	2 基本文プリントで分詞による後置修飾の復習 お互いにアドバイスをしながら互いのスピーチを高め合い、自国の文化について仲間にわかりやすく英語でスピーチしよう。	個	☆● 暗唱し見ないで言えたら座る
展 開 30分	3 ループリックで自分の目標を決める	個	☆生徒自身でスピーチの1回目と2回目の目標を見通す ○スピーチのポイント(声量・スピード・ジェスチャー・目線などを確認する。
	4 各自でスピーチの練習	個	○自分で満足いく練習ができたなら座る
	5 一回目スピーチをして他人の評価と自己評価をする。	4人	●聞く人は話している人を見て評価カードに書いている。その都度アドバイスを発表者に与えている。 ☆ループリックで自己評価
	6 アドバイスを受けて練習	個	●大きな声でグループのメンバーにわかりやすく発表しようとしている。
	7 2回目のスピーチ	4人	○聞く人は、1回目と比較してどのように良くなったかループリックを参考にし具体的に評価する。
終 末 10分	8 発表	全	○発表者の良かった点を指摘する
	9 本時の振り返りをする 最後まで原稿を見ないで言えたので良かった。ジェスチャーや目線の動きがなく、ただの音読のようになっているというアドバイスをもらったので次回はそこを直したい。メンバーのスピーチを聞いて適切なアドバイスができた。		☆本時の活動を振り返り、自分の学びの評価を行う。 ○1回目、2回目の自分の変化について記述させ、パフォーマンステストへの課題を書く。
	10 次時の予告・挨拶		